

あ い さ つ

塩竈市教育委員会

教育長 小倉 和憲

平成23年3月11日午後2時46分、私たちは長く続く強大な揺れとともに、人類史上希有の大震災に見舞われました。三陸沿岸を震源とするマグニチュード9.0の大地震は、塩竈市でも震度6強の強い揺れを観測しました。地震発生から約1時間後に襲来した大津波は、浦戸地区で8mを超え、本土地区でも4mに達しました。この大津波は、浦戸諸島全島で居住地域が浸水し、家屋の3分の2が流失、本土地区でも約22%が浸水、震災関連死10人を含む57人の方が犠牲になりました。

当日は、市内の中学校では卒業式が行われ、ほとんどの生徒は帰宅後の被災でした。また、小学校はまだ児童が学校に残っている時間帯で、家族への安全な引き渡しに慎重に取り組みました。誠に残念ながら、卒業式を終えたばかりの中学生1人が家族とともにその尊い命を奪われしまい、とても心痛む結果となってしまい、改めて哀悼の意を捧げます。

発災直後から、学校では地域住民等の避難所としての役割が始まりました。教職員には子どもたちの安否や学校施設の被災状況を確認しながら、雪の舞い散る寒い夜を、大きな混乱もなく避難所の運營業務に当たっていただきました。また、ライフラインが途絶え、情報も伝達しにくい状況の中、各学校の校長先生方には、連日教育委員会に集まっていたき、情報の共有に努めました。

迎えた平成23年度は、始業式を2週間ほど遅らせ、夏季休業を2週間短縮するなど、落ち着いた学校生活を取り戻すのに、多くの労力を費やしました。そして、全国各地から多くの激励と支援を頂戴し、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。

震災から1年、多くの教訓が私たちの記憶の中に残されました。そうした体験を後世に伝える役割が私たちにはあります。今般、文部科学省の復興教育支援事業の補助を得て、被災地として学校における防災教育を見つめ直す機会を頂戴しました。その中には、児童生徒や教職員、保護者、地域の方々が体験した貴重な情報も含まれます。

本誌の前半は震災以降に整理された「学校防災マニュアル集」、後半は貴重な体験を集めた「震災体験文集」として一冊に合本して、東日本大震災をアーカイブすることにしました。平成24年の年明け早々、急いでまとめ上げたものであり、一言一句十分に吟味できなかった部分もありますが、電子データとしても保存しておりますので、今後の指導等に生かしたいと思われる方は、参考にしていただければ幸いです。

最後になりますが、本誌の発行に当たり貴重なご意見・ご提言をいただきました皆様方に、心から感謝申し上げますとともに、関係各位、諸機関の皆様方に今後も引き続きご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます、あいさつといたします。